東北大学附属図書館報
木這子
BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

びが，本当に図書職員の喜びとなるような理想的な職場環境をつくるという夢をいだきながら，現在，増築に関連した膨大な作業と取り組んでいる最中である。「新しい酒は新しい革袋に入れる」という格言があるが，建物ができた今，東北大学工学部のアクティビティーや新研究を内外に知らせる発信局としての役割を果たすばかりでなく，利用者に親しまれ大いに活用されることを期待している。

（ちゅうばち・のりよし）

学科図書室の統合で更なる飛躍を

工学分館管理掛長　佐　藤　正　弘

増築前の工学分館の建物（以下，既存部，とする）は，昭和55年11月に鉄筋コンクリート造2階建（2,712㎡）で新築されているが，諸般の事情から，その当時の資格面積を充足するものとはなっていなかった。

昭和55年4月開催の工学分館図書委員会（現在の工学分館運営委員会の前身）の議事要録に「分館書庫（1,500㎡）の概算要求を昭和55年度より提出する」とあることから，既存部の建物の基礎工事が行われている時点で，すでに増築要求の動きのあったことがわかる。

その当時，既存部の建築にあたっては，工学部の図書資料全体の分館への集中管理を目標にすることを当初の構想としていた。しかしながら，建築面積の縮小によってこの構想は達成が不可能となったが，今後分館の書庫増築の実現につとめ，当初の構想を達成するという目標には変わりのないことが工学分館図書委員会の席上で確認されていた。

このような永い間の要望であった工学分館の増築は，平成5年度の第2次補正予算で認められ，急遽その具体化が開始されたわけである。

こうして，スペース不足を解消するために，資格面積の補完を主体とする増築（以下，増築部，とする）は，それまでの概算要求の平面図を基礎としながら，工学部建築学科建築・環境デザイン研究室（伊藤教授）において基本設計の作業がすすめられた。

増築部の基本設計にあたっては，工学部の「キャンパス中心にある建築としてのシンボル性，新しい図書館機能に対応した建築計画が追求され，さらには，これからのキャンパスリニューアルに続くデザインのはじまりとしての役割」（『広報』（東北大学広報委員会），No.162，1994年9月30日）も重視された。

特に，実施設計としてまとまるまでには，既存部と増築部との2階での接続方法，延長開館時の暖房方式，防火区画・電気関係の問題，等について，施設部と工学部との間で再三再四にわたる打ち合わせが行われた。

最終的には，①既存部と増築部との2階での接続は，既存部のベランダを一部取り壊しのうえ，エキスパンションジョイントを設ける，②延長開館時の閲覧室の暖房は，蓄熱方式を採用し，そのために実容積55㎥の蓄熱槽を設ける，ことになった。増築部の着工は，平成6年3月25日で，工事用車両の駐車スペースを確保することもままならない悪条件の中で工事はすすめられた。

建物は，鉄筋コンクリート造3階建，面積は，2,643㎡で，既存部の2,712㎡とあわせて総面積5,355㎡となった。竣工は，平成7年2月20日

となっている。工事費は，建築関係が450,110千円，電気関係が63,860千円，機械関係が132,870千円，蓄熱槽関係その他が18,540千円，総額665,380千円となっている。

増築部の1階は，既存部の1階から一部吹き抜けとなっているホールで接続されている。1階には，積層書架，電動式集密書架を設置した学位論文室，会議室，職員休憩室，等がある。2階には，第3閲覧室，3階には，第4閲覧室，ラウンジ，ビデオブース，喫煙コーナー，等がある。1階・2階とも増築部は，既存部との段差がまったくないので，利用者は，同一フロアにいる感覚で移動が可能である。

建物の外装は，2階部分がタイル張り，その他は吹付仕上げである。これに伴い，打放しとなっていた既存部の外装も，増築部の外装にあわせて全面的に吹付仕上げがなされた。2階の閲覧室は，分館が幹線道路に隣接していることもあって，騒音を遮断することと，冷暖房の効率を重視して，窓が少ない構造になっており，また，3階の閲覧室は，周辺の環境の良さを考慮して，眺望が可能となるように熱線吸収ガラスを採用している。1階の積層書架，2階・3階の閲覧室の空調は，ファンコイル＋ダクト方式，1階の会議室等は，パッケージ型空調機による個別方式となっている。

さて，工学分館の増築にあたって，工学部の主任教授会は，平成5年12月に「学科図書室の図書及び職員を分館に移すこと」という基本方針を了承している。

この基本方針にそって，各学科図書室からの図書および雑誌の移動は，今年の4月に行われ，その量は，ダンボール箱で約9,000箱にも及んでいる。学科図書室から移動した製本雑誌には，これまで分散して運営されていたことも反映して重複が多く，今後，不用決定・廃棄等の膨大な作業が必要となると思われる。

さらに，今回の増築によって，資格面積の関係からこれまでの学科図書室は廃止されることとなり，工学部の基本方針にそって学科図書室職員のうち定員内職員7名が今年の4月1日付けで工学分館に配置換になった。これにより，工学部内の組織である学科図書室の職員から，附属図書館の組織を構成している工学分館の職員になったのである（但し，工学分館の職員は，附属図書館の定員ではなく，全員，工学部の定員となっている）。学科図書室の廃止に伴い，学科によっては，新着雑誌の展示を目的とした小規模の「学科資料室」を暫定的に設けているところもある。

学科図書室から移動した図書および雑誌の配架作業は，分館の既蔵資料の全面的な再配置の作業を含めて，5月から7月にかけて休館することなしに行われた。この作業には，学生アルバイトと職員全員があたった。

その結果，既存部の2階には，洋雑誌が，増築部の1階の積層書架には，学科旧蔵の図書が学科ごとに配架されている。増築部の2階には，これまで既存部の2階にあった学生用図書を移すとともに，今後1995年以降受入の図書もあわせて配架することとした。増築部の3階には，和雑誌を配架している。

増築によって，書架の収容可能冊数は，96,000冊から278,000冊に、また閲覧座席数は，従来の275席から154席増えて429席になっている。

増築という性格上，利用者の動線や資料の配架に様々な問題があることは十分承知しているが，それらの制約を業務を通じてできるだけ少なくし，利用しやすい図書館にすることも私たちの新たな責務である。

工学分館は，短期間の間に，①増築，②学科図書室からの図書および雑誌の移動，③学科図書室職員の配置換による事務組織の改組，という3つの「大事業」を経験した。これらのこと

は，個々の図書館職員にとっても，一生に一度あるかどうかのことであり，貴重な経験をしたといえる。

しかしながら，これらのことは，工学分館のあるべき姿からすれば，条件整備の一端に過ぎず，課題の実現はまさにこれからである。そのためには，これまでの「３大事業」に注がれた以上の投資と多くの皆様のご援助を必要としている。なお一層のお力添えを心からお願いする次第である。　（さとう・まさひろ）

附属図書館工学分館増築工事概要

設計者　東北大学施設部

着　工　平成６年３月25日

竣　工　平成７年２月20日

構　造　鉄筋コンクリート造４階建

床面積

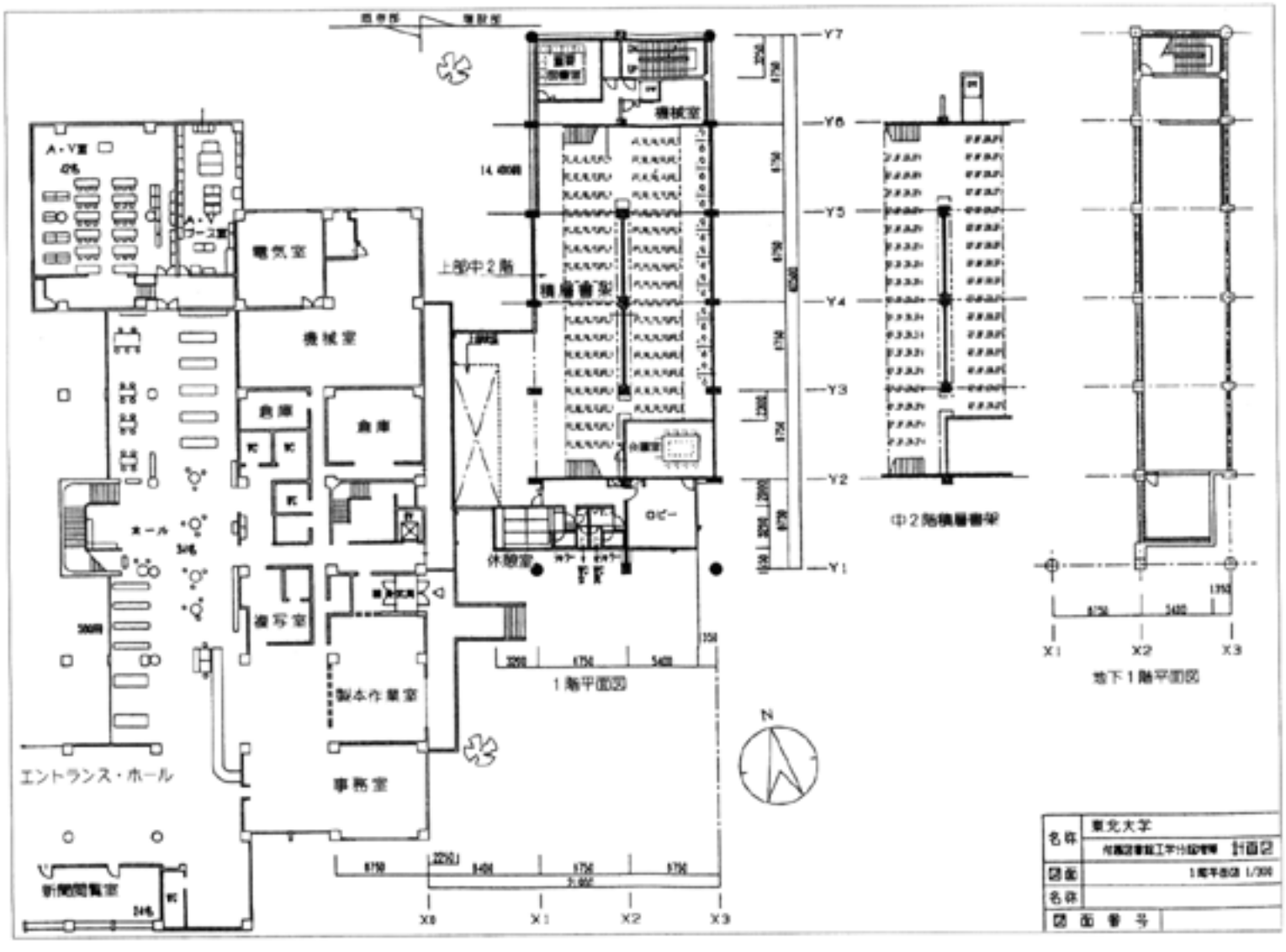
B階	256㎡
１階	661㎡
１階中２階	207㎡
２階	894㎡
３階	625㎡
合計	2,643㎡

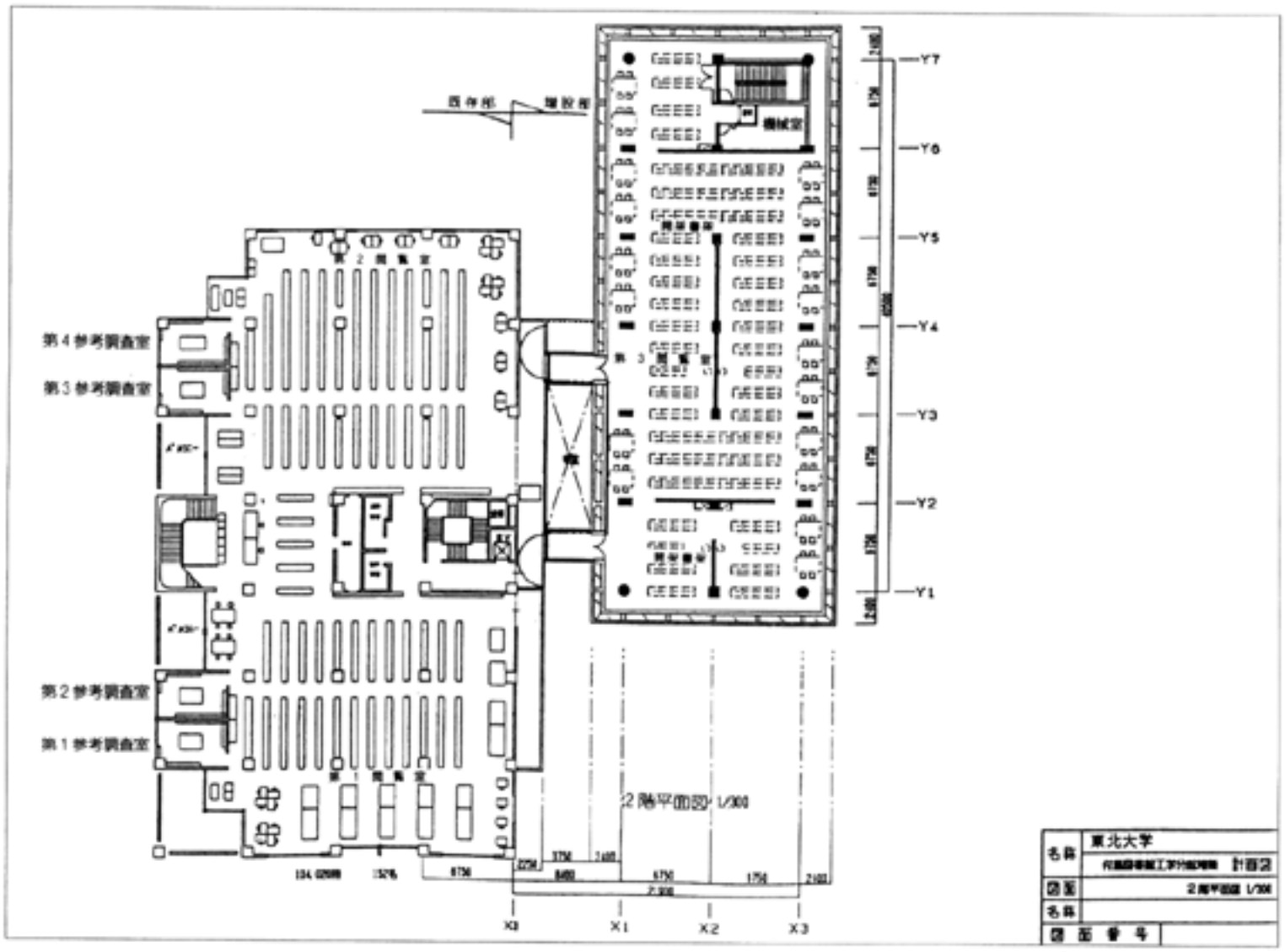
設　備　電気設備・火災報知設備・エレベーター設備・給排水設備・空気調和設備

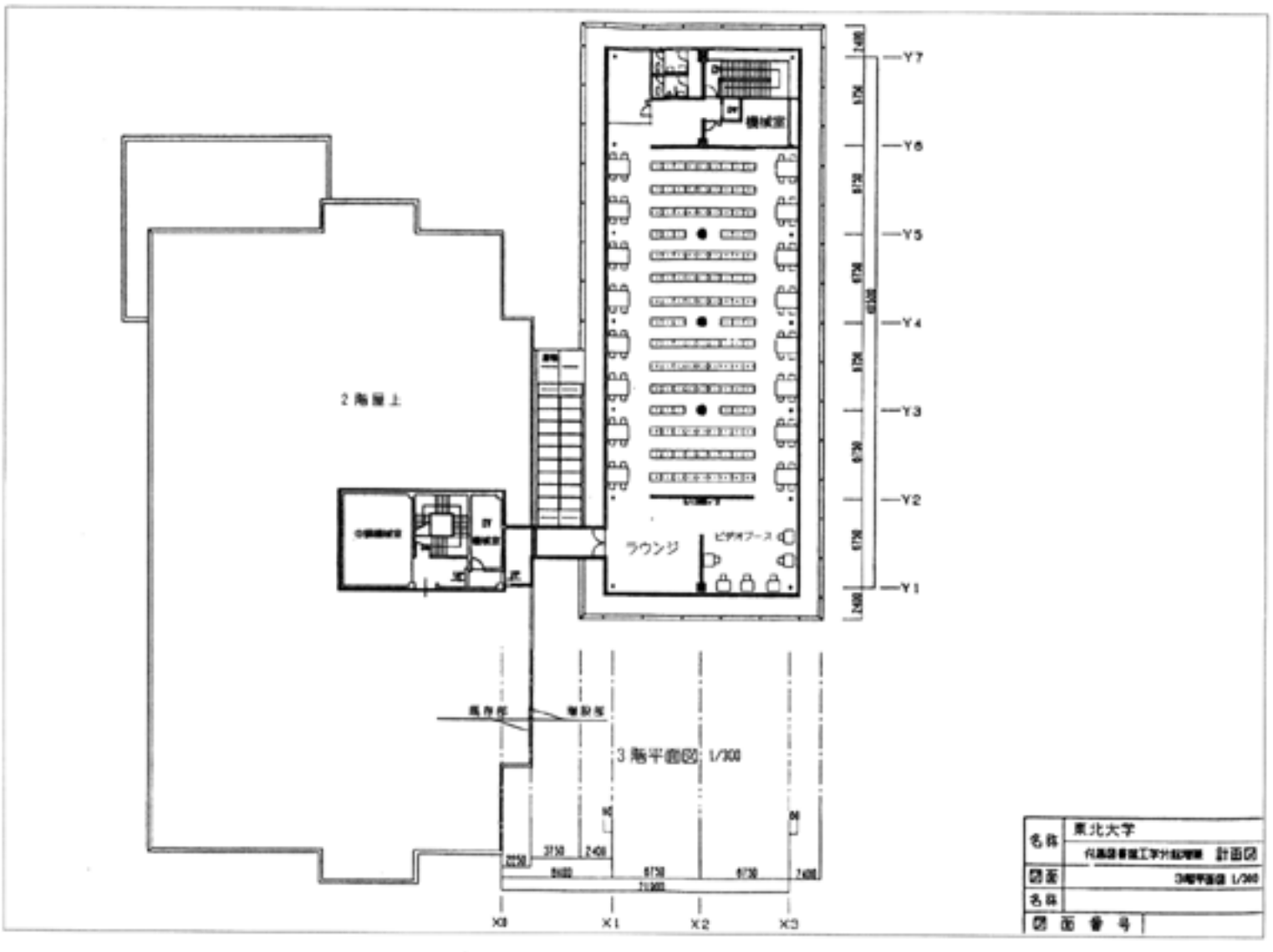
総工費　665,380千円

工事関係会社

建　築	前田建設工業株式会社仙台支店
電　気	岡野電気工事株式会社仙台支店
設　備	丸紅設備株式会社仙台支店
エレベーター	三菱電機株式会社東北営業所




第4参考調査室
第3参考調査室
第2参考調査室
第1参考調査室
2階平面図 1/300
Y7
Y6
Y5
Y4
Y3
Y2
Y1
X0
X1
X2
X3
東北大学


2階屋上
ラウンジ
3階平面図 1/300
Y7
Y6
Y5
Y4
Y3
Y2
Y1
X0
X1
X2
X3
東北大学

第66回　日本医学図書館協会総会

標記総会が去る5月18日（木）・19日（金）の両日，関東地区代表機関「聖マリアンナ医科大学附属図書館」により，川崎市中原のホテル・ザ・エルシイを会場として，協会加盟館104館及びオブザーバー4機関から館長・主任司書等240数名の参加があり盛大に開催された。

総会では，来賓として列席された文部省学術国際局学術情報課長：木島令己氏の祝辞に続き，韓国医学図書館協議会長：徐丙道氏のメッセージを同協議会顧問金宗會氏から紹介された。

総会の日程は，第1日「司書会議」，第2日は「総会」として開催され，その概略について紹介する。

第1日「司書会議」

司書会議での協議題は，①平成6年度事業報告について，②平成6年度決算について，③平成7年度事業計画（案）について，④平成7年度予算（案）について，各々の審議と，各地区の活動状況について報告が行われた。続いて，今回新たに企画された，テーマ・ディスカッション「メディア多様化時代と医学図書館」において，基調講演「電子図書館へのシナリオ」学術情報センター教授：安達淳氏，事例報告　①「マルチメディア」東京女子医科大学情報科学室：西岡正行氏，②「ドキュメント・デリバリー」日本医科大学図書館：殿崎正明氏，③「インターネット」東京大学医学図書館：谷澤滋生氏の講演と報告があり，これらの報告をめぐり活発な意見交換を行った。

第2日「総会」

総会では，新任館長，新任主任司書，名誉顧問，会友，永年勤続表彰者の紹介に続き，総会議題の審議に入った。①平成6年度事業報告・決算報告，②平成7年度事業計画（案）・予算（案），③「入会金及び会費に関する細則」の一部改正について，④「総会運営に関する細則」の一部改正について審議され承認された。

総会期間中には，橋本信也氏：東京慈恵会医科大学教授の「インフォームド・コンセントと医学情報提供―医学図書館の役割―」と長谷川和夫氏：聖マリアンナ医科大学学長の「アルツハイマー病への対応」についての講演があり，次期当番館（兵庫医科大学図書館）を決定し総会を終了した。　（医学分館）

平成7年度大学図書館職員長期研修に参加して

医学分館運用掛長　日　出　弘

平成7年度から前期を東京地区（国立オリンピック記念青少年総合センターほか）で，後期をつくば地区（図書館情報大学ほか）で研修をおこなうことになり，宿舎にも冷房が完備され，快適な環境で3週間の研修を受けることができた。

大学図書館が直面する課題等に関する総論から始められた研修では，学術情報の流通とネットワーク活動，資料の整備と相互協力，学術情報センターの活動と大学図書館業務のシステム化，二次情報データベースの形成と利用，情報

検索サービス等から，著作権・生涯学習・事務効率化・電子図書館システム・健康管理等の関連講義まで多岐にわたり，日常業務に直接・間接に役立つ内容も多かった。

また，各種の報告・提言に携わった責任者の方々の生の声に接することができ，非常に有意義な時間を持つことができた。

共同研究討議では，「これからの大学図書館員に求められるものはなにか」をテーマとする班に属し，グループ討議をおこない，図書館員が直面する様々な問題について忌憚のない意見交換をおこなった。

施設見学では，国立国会図書館・早稲田大学総合学術情報センター・国文学研究資料館・東京工業大学附属図書館・筑波大学附属図書館新館等を訪れ，各施設の雰囲気を実際に肌で感じることができた。

文部省，図書館情報大学を始めとして，研修のお世話をいただいた皆様のご苦労・ご配慮により，終始快適に研修生活を満喫させていただいた。

研修初日から梅雨あけを思わせる好天にも恵まれ，一つ一つの講義が大変印象深いものであった。また，全国の大学図書館の中堅職員の皆様にも知己を得，私のこれからの図書館員生活を支える心強い人的ネットワークとして掛け替えのない財産（朱夏の会）を作ることができた。

かつて同じ職場でご指導をいただいた方々に，講師としてあらためて種々のテーマについてお話や経験を伺い，当時の状況と思いあわせて理解を深められたことも多かった。また，席を同じくした図書館員の皆様ともひさびさに顔をあわせる機会にも恵まれ，情報交換等もおこなうことができ幸いであった。

梅雨寒の雨の中，仙台を後に研修にむかったが，無事に研修を終え降り立った駅内には，仙台七夕の吹き流しが舞い，まぶしい真夏の青空がひろがっていた。

最後になりましたが，医学分館へ異動間もない私をこころよく研修に送り出していただいた医学分館の皆様，そして不在時にいろいろとご支援いただいた東北大学図書館職員の皆様に心より御礼申しあげて，研修報告とさせていただきます。

（ひので・ひろし）

平成７年度ＩＬＬシステム地域講習会

平成７年度ＩＬＬシステム地域講習会は，６月27日（火）から28日（水）までの２日間の日程で，当館を会場に開催された。

本講習会は，学術情報センターで実施しているＩＬＬシステム講習会のほか，同センターと開催大学の共催で実施されるもので，「相互貸借業務担当職員に対し，ＩＬＬシステムの運用方法及び端末操作等に関する知識・技術を習得させる」ことを目的としており，東北地区では初めての開催だったが，７機関15名の受講者があった。

講義及び実習は，本学の講師及び実習補助者により，学術情報センターのカリキュラムに沿って「システム概説」，「端末操作・検索総論」，「複写業務の基本操作」，「貸借業務の基本操作」等の内容で実施された。

本講習会は，さきにも述べましたが，当館では初めての講習会であり，講師及び実習補助者も本学の職員で実施しましたが，講師等の熱心な指導と受講者の一生懸命さにより成功裏に終了しました。

終わりに，講習会に直接担当いただいた講師及び実習補助者を始め，ご協力いただいた館員各位に紙面を借りて謝意を表したい。

平成７年度目録システム地域講習会

平成７年度目録システム地域講習会は，７月11日（火）から13日（木）までの３日間の日程で，当館を会場に学内外から14名の受講者が参加して開催された。

本講習会は，学術情報センターで実施している目録システム講習会のほか，同センターと開催大学の共催で実施されるもので，「目録業務担当職員にシステムの運用に関する知識・技術を習得させる」ことを目的としている。

講義及び実習は，学術情報センターの橋爪宏達講師をはじめ本学の講師陣によりカリキュラムに沿って「目録システム概論」，「検索総論・検索技法」，「登録総論」，「図書登録」，「図書登録実習」等の内容で実施された。

実習では，情報管理課から14台の端末機の提供を受け，講師陣のほかに和漢書，洋書両目録情報掛の方々にも実習補助者として全面的なご協力を得，多大な成果を挙げることができました。

最後に，学術情報センターからの講師の派遣，テキスト・資料の配布等種々ご配慮いただき深く感謝するとともに，講師陣，実習補助者及びご協力いただいた館員各位に紙面を借りて心からお礼申し上げます。

平成７年度ＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ地域講習会

平成７年度ＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ地域講習会は，８月８日（火）から９日（水）までの２日間の日程で，青葉山地区に新装なった東北大学大型計算機センターを会場として開催された。

本講習会は，学術情報センターで開催されているＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ講習会のほかに，各地区の大学図書館と共催で実施される地域講習会で，「代行検索担当者および情報サービス利用者に知識・技術を習得させる」ことを目的としており，東北地区の12機関から24名の多数の受講者があった。

講義及び実習は，学術情報センターの石原栄一講師をはじめ本学の講師補助者によりカリキュラムに沿って「情報検索の手順」，「基本コマンドの使い方」，「応用検索」，「論理演算の組立て方」等の内容で実施された。講師等の熱心な指導と受講者の真面目な受講姿勢が相俟って２日間とも充実した講習会で，多くの受講者から感謝の意を述べた感想が寄せられた。

末筆ながら，担当された講師等の方々及びご協力いただいた館員各位に心からお礼申し上げます。

さらに，快く会場を引受けていただいた大型計算機センター及び助言，お世話くだされた同センターの職員の方々に紙面を借りて衷心より感謝申し上げます。

ＩＬＬシステム地域講習会を受講して

医学分館運用掛　加藤悦子
中島千恵
吉原朱実

標記講習会が，平成７年６月27日～28日の２日間に亘り川内本館にて開催された。参加者は

東北大学各分館から７名，その他山形大学や福島県立医科大学，奥羽大学など東北各地から８名，総勢15名の講習者が参加した。現在ＩＬＬ業務に携わっている経験者，これからシステムを導入するために派遣されて来たという未経験者など様々な顔ぶれであった。それ故，講師の方々は進行に大変苦慮されたのではないかと推察される。

最初はテキストの解説。その後はその実戦と朝から夕方迄繰り返しの，結構疲れるスケジュールではあったけれども，時には講習者同士で教え合ったり，雑談も入ったりしながら和気藹々の内に勉強することが出来た。又，当分館では依頼と受付が全ったく別々に作業をやっている為，片方の立場でついつい仕事をこなしてしまう場合が多いと思われる。今回，相互利用に於ける双方の心得や問題点も教わり，心するものがあった。我々の様な分館所属の者にとっては仲々他分館・他大学の方々との交流の機会が少ないので，二日間とはいえその意味からも二重に楽しい時を過ごさせて頂く事が出来た。

今迄，前担当者から実際的に必要な操作だけを習った感があり，多様性に欠けているのではないかという不安な面を常日頃持っていた。だが，毎日の業務に追われて其の問題を解決する暇もなく今日に至っているというのが現況であったが，それが今回の講習のおかげで軽減されたのではないかと考えている。思うに，全国の図書館の所蔵書の調査を居ながらにして瞬時可能とし，その文献依頼や依頼館への回答の処理が以前に比して遥かに迅速に出来るようになったのはＩＬＬシステムの開設のおかげに他ならない。

初めての地域講習会ということで，担当の相互利用掛の皆様をはじめ，講師の方々の準備に於ける忙しさは如何ばかりであったかと推察申し上げます。我々もこの貴重な経験を今後の業務に生かす様にしたいと思った次第であります。

最後に，開催に尽力された関係者の方々に感謝申し上げます。

（かとう・えつこ）
（なかじま・ちえ）
（よしはら・あけみ）

平成７年度目録システム地域講習会を受講して

情報サービス課閲覧第一掛　菅　原　　透

標記講習会が，７月11日（火）から13日（木）までの３日間の日程で，当館を会場として開催された。受講者は，東北大６，山形大２，福島大１，東北学院大２，奥羽大２，仙台電波高専１，の計14名である。

講習第１日目は，学術情報センター講師（橋爪講師，平野講師）による「目録システム概論」と「目録情報の基準Ｉ」の講義に引続き，当館講師による端末操作解説及び検索総論・技法の講義がおこなわれ，２日目以降は，当館講師による「登録総論」の講義の後，図書登録実習がおこなわれた。

実習については，情報管理課より端末機の提供と，和漢書・洋書両目録情報掛員が実習補助者として受講生の指導にあたり，初心者の質問にも懇切丁寧に説明され，充実した講習内容であった。

最後に，初日の落雷による端末使用一時停止というトラブルにも関わらず，冷静にカリキュラムを進められた講師の方々，並びに本講習会の関係者の方々に心からお礼申しあげます。

（すがわら・とおる）

平成７年度ＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ地域講習会を受講して

金属材料研究所図書室　佐　藤　百　代

標記講習会が学術情報センターと東北大学附属図書館との共催により平成７年８月８日～９日の２日間，移転新装なった大型計算機センターを会場にして開催された。国・公・私立大学から24名が受講した。講習に先だち小山館長の挨拶，講師の紹介などひととおりのセレモニーの後，実習室で３人ずつのグループで端末に向かいながら講義が始まった。

講習は端末操作，検索コマンドの使い方，演習をテキストに添って行なわれ，課題は平易なものから始まり難易な問題へと気を抜けないものがあったが久方ぶりの緊張に身を置く心地良さを味わい，かつなごやかな雰囲気で充実した２日間であった。外は立秋を迎えたにもかかわらず真夏日の中，冷えすぎの感がある実習室で過ごした幸わせを今回の講習会の関係者の方々への感謝とともに忘れぬようにしたい。

（さとう・ももよ）

会　議

◎学　内

7．6.20　平成７年度第１回分館長会議

○協議事項

(1)　平成７年度図書館資料費予算配分（案）について

(2)　商議会の開催について

(3)　本・分館間の関係について

(4)　その他

○報告事項

(1)　国立大学図書館東北地区協議会について

(2)　その他

①平成７年度図書館運営費（共通経費）予算について

②第３次遡及入力計画の全体計画の変更について

③国立大学図書館協議会総会について

④各分館の状況について

7．7．4　当面の課題に関する検討委員会（第５回）

7．7.24　平成７年度第２回分館長会議

○協議事項

(1)　商議会について

○協議事項

①Ｔ－ＬＩＮＥＳ次期システム検討委員会の報告について

②当面の課題に関する検討委員会の報告について

③その他

○報告事項

①各分館からの報告

②平成７年度図書館運営費（共通経費）について

③平成７年度図書館資料費の配分について

④第３次遡及入力計画について

⑤第26回国立大学図書館東北地区協議会について

⑥第42回国立大学図書館協議会総会について

⑦その他

(2) 全学自己評価報告について

○報告事項

①本・分館関係の実態把握について

7．7.24　平成7年度第1回附属図書館商議会

○協議事項

(1) T－LINES次期システム検討委員会の報告について

(2) 当面の課題に関する検討委員会の報告について

(3) その他

○報告事項

(1) 各分館からの報告

(2) 平成7年度図書館運営費（共通経費）について

(3) 平成7年度図書館資料費の配分について

(4) 第3次遡及入力計画について

(5) 第26回国立大学図書館東北地区協議会について

(6) 第42回国立大学図書館協議会総会について

(7) その他

◎学　外

7．7．7　東北地区大学図書館協議会第1回幹事会（於：東北大学）

7．9.21　東北地区大学図書館協議会第2回幹事会（於：秋田）

7．9.21～22　東北地区大学図書館協議会総会（於：秋田）

編　集　後　記

今年の夏も猛暑が続きましたが，9月に入るとさすがに朝夕はめっきり涼しくなりました。本館では，6月末から8月初めまで，学術情報センターとの共催で地域講習会（3回）が行われ，講師，講師（実習）補助者及び関係者は無事終了しほっとしたところだと思います。暑い中連日講習会に参加された受講生の皆様ご苦労さまでした。それぞれの講習会で得た知識あるいは技術以外にも，他機関からの参加者との交流をこれからの日々の業務の中で，十分生かしていくことが出来ますよう期待しています。また，暑い中本号のためにご寄稿いただいた皆様，本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。（S）

東北大学附属図書館館報「木這子」　第20巻第2号（通巻72号）発行日　平成7年9月30日

発　行　人　高橋　裕　　広報委員長　門田泰典

発　行　所　東北大学附属図書館　仙台市青葉区川内　電話　022-217-5910